

令和6年3月31日

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号
管理機関 福井県
代表者名 知事 杉本 達治

令和5年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和5年4月1日（契約締結日）～ 令和6年3月31日

2 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	さかいし そうごうせいさくぶ
管理機関名	坂井市 総合政策部
代表者職名	次長兼企画政策課課長
代表者氏名	長谷川 正広

ふりがな	あわらし そうぞうせんりやくぶ せいさくこうほうか
管理機関名	あわらし 創造戦略部 政策広報課
代表者職名	課長
代表者氏名	堀江 紀幸

②管理機関（産業界）※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	かぶしきかいしゃ ふくいぎんこう さかいちょうしてん
管理機関名	株式会社 福井銀行 坂井町支店
代表者職名	支店長
代表者氏名	善谷 一孝

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	ふくいけん
管理機関名	福井県
代表者職名	知事
代表者氏名	杉本 達治

3 指定校名

学 校 名 福井県立坂井高等学校
学校長名 清水 一広

4 事業名

学科横断型D X研究による次世代産業人材育成体制の構築

5 事業概要

(1)企業との関り（企業研修：産業の現場を見る、知る、共感する、考える）

- ・1年生には8コース全員に企業等訪問（自分が学ぶ専門に近い分野）・企業等による出前授業（自分が学ぶ専門分野と専門外の分野）の実施
- ・2年生には8コース全員に企業訪問（自分が学ぶ専門分野と専門外の分野）並びにグローバル企業訪問の実施
- ・企業からは以下の内容を中心に説明を受け、（事前に企業の方とは、マイスター事業の理念の共有をしている）生徒が考えられる内容を盛り込んだ。
 - ① D Xを取り入れた技術革新やオンリーワンの技術について
 - ②その産業の状況と課題
 - ③社会への貢献
 - ④企業理念

すべての企業が、利潤追求だけではなく持続可能な社会に向けての貢献を掲げている。そのような企業のステータスも生徒たちに理解させ、就職活動とは一線を画し、自分たちの学校での学びが地域にどのようにつながっているか、つなげていけるか、そして地域に貢献できるかを考えさせる内容にした。

(2) 1年全生徒を対象に、1単位の学校設定教科「ふくいの産業」の実施

観光およびプロダクトデザインの高度な専門知識を有する2名の産業実務家教員には、それぞれの専門性を中心に「ふくいの産業」の包括的な授業をして頂いた。主としてビジネスコースと生活デザインコースに年間を通して入っていただいた。

他の6つのコースは、学校内の教員の越境授業を行った。例えば農業コースに電気コースの教員が今トピックの話題等の授業を行う。いくつもコースの特性のある授業を受講することにより、自分の専門の立ち位置を見つめさせた。そして産業のつながりを感じさせた。

その単元後は、自分の専門とする高度技術者講師を招いてそれぞれの専門の取り組みを聞き、交流した。

3学期には、「企業人と創る授業」と銘打って、4コマ編成のコラボ授業を行った。生徒が課題を与えられ、探究していく時間もあり、教員も企業も魅力ある授業の構築をめざし、学びあう中での授業であった。昨年も実験的に行っていて、好評だったものである。

(3) 3年生が研究の経過披露としての課題研究の交流会、成果披露としての企画研究発表会を実施

課題研究交流会は9月27日（水）に行った。自分が学ぶコース以外の課題研究の様子を見学し、その中で他コースの学びについて質問するなどコース間の交流を図った。他コースの学びから刺激を受けて自分の課題研究の手法を考える機会となった。

企画研究（マイスター・ハイスクール予算をつけた課題研究）発表会は、12月16日（土）に実施した。全校生徒が視聴するだけでなく、地域の中学3年生、保護者、大学・自治体の方、コンソーシアム参加予定企業の方々を招き、生徒の主体的な運営で行った。

(4)マイスター・ハイスクール事業を支える学校改革

マイスター・ハイスクール事業が砂上の楼閣にならないためにも、今年度は生徒活動概念図にある根っこの部分の充実を図った。「学びに向かう指標」坂井高校スタンダード～7つの矜持～の作成、マイスター通信（第10号～第13号、第14号は総括特大号4ページ版R6.3月末完成予定）による地域や域内中学校への広報を実施した。

すべての研修において生徒用のレジュメを用意しメモが取れるように配慮し、それを基に寄稿してから振り返りのループリック自己評価ができるようにした。その結果から生徒の変容をまとめてきた。

マイスター全体の振り返りに関しても、生徒の変容がわかるような問いの設定をしている。経年評価を試みたが、初年度のコロナの影響で最終的に「このマイスター・ハイスクール事業を通しての変容」をつかみ取ることにした。ただ、現在の3学年とも、マイスターの恩恵を受けている生徒たちばかりであり、マイスター事業を受けていない生徒との違いは把握できない。

(5)今後の後継事業に向けた「坂井高校コンソーシアム」の始動に向けて

8月29日に「コンソーシアム設立のための運営委員会」そして、12月16日には「コンソーシアム設立のための総会」を開催した。後者は、文部科学省の職員9名の参加に加え、コンソーシアム参加企業並びに自治体、大学の会員の参加をいただいた。PTA並びに1、2年の各クラス代表も参加してもらい、運営は生徒会に託した。総勢100名弱の参加者があった。

そこではコンソーシアムの理念、運用の中味、そして会則が承認され、2つの研修が行われた。1つは「コンソーシアムでの協働から生まれてくる可能性について」もう1つは「産学官と生徒が協働できる課題の摸索」であり、2つともグループディスカッションが行われ、来年度からの始動に弾みをつけた。

6 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目	☒ 開設している	・	☐ 開設していない
・教育課程の特例の活用	☒ 活用している	・	☐ 活用していない

7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
善谷 一孝	福井銀行坂井町支店 支店長
長谷川 正博	坂井市総合政策部 次長
堀江 紀幸	あわら市創造戦略部政策広報課 課長
山本 寛	福井県教育委員会 副部長（高校教育）
半澤 政丈	坂井市商工会 会長
赤尾 政治	あわら市商工会 会長
大久保 貢	福井大学 地域創生推進本部 教授
森川 峰幸	福井県立大学 創造農学科 教授
清水 一広	坂井高等学校 校長

8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
三村 友男	前田工織株式会社 監査役 マイスター・ハイスクールCEO
松井 繁和	株式会社福井銀行坂井町支店 支店長代理
斉藤 立海	坂井市総合政策部企画政策課 課長補佐
多賀 太郎	あわら市創造戦略部政策広報課 参事

浅原 雅浩	福井大学 教育学部 教授
蓑輪 美智子	福井県立大学 経営企画部 連携・研究課 課長
江川 誠一	福井大学 国際地域学部 非常勤講師 産業実務家教員
橋本 洋子	パレットデザイン代表 仁愛女子短期大学 講師 産業実務家教員
大正 公丹子	福井県教育庁高校教育課 参事（地域人材育成）
渡邊 本樹	坂井高等学校 教頭

9 管理機関の取組・支援実績

（１）実施日程

業務項目	実施期間（２０２３年４月１日　～　２０２４年３月３１日）											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
運営委員会	ビジョン策定					課題研究交流会			企画研究発表会の参観		年度成果の検証	
事業推進委員会	具体的事業内容策定										年度報告と次年度課題の検討	

（２）実績の説明

それぞれの委員会を開催した。その際に管理者としてアドバイスをを行った。令和４年度に学校設定教科として導入した「ふくいの産業」の進め方を支援した。

様々な企業人の生き方、ものづくりの考え方等を、企業への訪問研修や出前研修を通じて生徒たちに学んでもらうことによって、ふるさと福井への貢献並びに自己の well-being を達成してくれる人材の育成を目指す坂井高校の姿勢を見守っている。

令和６年度以降もこの事業がパイロット事業として継続できるように、予算の確保をしていきたい。

10 事業の実績

（１）実施日程

※学校設定教科「ふくいの産業」、「１年 企業研修」、「２年 企業との研修」、「３年 企画研究」、「マイスター事業を支える学校改革事業」について【別添１】参照

※企画研究による各コースの取り組みと実績（令和５年４月～令和６年１月の取り組み）について【別添２】参照

（２）実績の説明

この事業での実績のとらえ方に関して、進学率や就職率のように明確な数値化は難しい。しかし、確実に生徒活動概念図の「根、幹、葉」にある一つひとつのことに生徒と教員との議論、共有化があり、コース間を超えた生徒同士の協働という形となって実行されてきた。上記の企画研究での成果物だけでなく、１つひとつのグループによる課題研究が互いに刺激を受け成果を上げてきている。

振り返ってみると、令和４年度後期から作成してきたPR動画作成における生徒同士の協

働活動においては、各コースの連携があり、その中で自らのコースの特徴をPRしたものであり、AARを繰り返し、生徒自らが誇りをもって成し遂げたものである。その中には企業との連携、自治体との連携も多く見られ、まさに総合産業高校におけるマイスター・ハイスクールの原点ともいえる活動であった。この企画を提供、支援してくれた文部科学省・ソフィアには感謝をしている。生徒たちが絵コンテを書いて動画を創っていく過程、8コースのそれぞれの教員が自分たちのコースを知っていただきたいという思いなど、生徒および教員が自分たちの学校の取り組みをしっかりと伝えたいという共通認識ができた。プロの制作者の方と生徒たちが創りたい作品像を積極的に語るなど、まさにマイスター・ハイスクール事業が目指す学習であった。ここから連帯していくことによる達成感が生まれ、生徒の主体的な学習にもつながっていった要因の一つだと考えている。

以下、5の事業概要に呼応する形で、生徒の変容と教員の変容を捉える。

(1) 企業との関り（企業研修：産業の現場を見る、知る、共感する、考える学び）

幹の中でも、中心的な事業である。今年度は1年生9つの企業を訪問、8つの企業に来ていただき出前授業講座を実施できた。2年生は16の企業訪問ができた。専門と専門以外の企業への訪問を1日をかけて行った。また訪問の目玉であるグローバル研修も8つのコースで実施できた。以下アンケートより。

① 何か新しい発見や気づきがあったか

企業訪問に関して…92.6%【1年生】

95.1%【2年生】

出前授業に関して…63.0%（専門分野）50.5%（専門外分野）

【1年生のみ】

② 企業の、社会や地域における役割について理解することができたか

企業訪問に関して…よく理解できた（62.9%）ほぼ理解できた（32.5%）

【1年生】

よく理解できた（61.1%）ほぼ理解できた（37.7%）

【2年生】

③ 今回の研修は満足がいくものか

企業訪問に関して…大変満足（72.5%）やや満足（25.1%）合計97.6%

【1年生】

大変満足（67.6%）やや満足（30.9%）合計98.6%

【2年生】

出前授業に関して…大変満足（60.2%）やや満足（37.5%）（専門分野）

合計97.7%

大変満足（48.1%）やや満足（44.4%）（専門外分野）

合計92.5%

【1年のみ】

グローバル研修に関しては、日頃見たことのない技術に触れたり、多くの企業が社会貢献

こそが企業価値と語り、ほぼすべての生徒が刺激を受けていた。

生徒の声の中には、「学べる」「わかりやすい」「学びやすい」「SDG sはこのように実践されている」「初めて知った」「自分の専門も生かされることが分かった」「他の分野とのつながりの大切さを知る」等が多くあり、現場を見て話を聞くことによる成長を感じる。なお、生徒だけでなく引率した教員の知見も広がるとともに、現代社会における企業活動に対して感謝する気持ちも醸成された。企業の方々は、事前に学校から伝えた学習項目も踏まえて、緊張感をもって生徒たちを迎えてくれている。訪問等の後には必ずお世話になった企業に生徒の感想をお送りしている。そのことに対する企業の返信に対しては、改めての使命感を感じてくれる声が多く、また生徒は気づきを素直に表現してくれているので企業側にとっても新鮮のようである。学校及び企業の双方に良い影響が感じられ、協働の成果を実感できた。

(2) 1年全生徒を対象に、1単位の学校設定教科「ふくいの産業」の実施

この学校設定教科「ふくいの産業」は、内容に関して、3年間の取り組みの中でもっとも試行錯誤をしたものであった。昨年度は産業実務家教員にお願いしたものであったが、どうしても内容に偏りが出ることがわかり、今年度は「ふくいの産業」を総合的にとらえることに重点を置き、先に述べたことを実践してきた。

コース間での越境授業に関してや、企業人と創る授業では相当教員に負担がかかったことと思うが、この事業を通じて教員にも変化が見られ、プライドをかけて他のコースの生徒に話をしてくれて、結果的に「学び」が教員にもみられた。学校内に「産業の専門家がいる」という視点を持てたのはよかったと思っているし、今後も継続して取り組んでいきたい。生徒の評判もよく、総合産業高校としての坂井高校を生徒自身が実感できる教科である。

(3) 3年生が集大成として取り組む課題研究の交流会、企画研究発表会を実施

課題研究は、専門高校である坂井高校における卒業論文に値する専門分野の集大成である。マイスター・ハイスクール事業の指定前は、その課題研究の途中の状況や、その成果を他のコースの生徒が見たり知ったりする機会はなかった。昨年度から課題研究交流会、一昨年度から、全コースによる企画研究発表会を行っている。

交流会においては、他のコースがすごい研究をしているとの驚きの声が上がると同時に、もっとゆったりと他のコースが取り組んでいることを知りたいという声も上がっている。身近な友人が、専門的な研究内容に取り組んでいることに触れ、大きな刺激を受け、向学心に火がついた生徒もいた。

12月に実施した企画研究発表会においては、全校生徒が3年生の代表的な研究を視聴した。この発表会の満足度は、満足以上 3年生(95.5%) 2年生(88.4%) 1年生(86.7%)であった。

総合産業高校ながら、マイスター事業が行われる前までは、自分のコース以外との交わりは学校祭や式典ぐらいしかなかった。その中で隣のクラスの友達がやっている研究を見ることは大きな意義がある。それが1つの学校になる根幹だと思っている。アンケートでは「とても興味を持った」が全学年平均70.1%、「自分の研究に生かせる」が37.9%、「これからの自分の課題研究への意欲につながる」が37.0%、となっている。地域、保護者、企業の方からも総合産業高校の各コースの研究レベルの高さ、地域との協働による生きた研究、コースを超えての協働による成果、そして何より子供たちが自分たちで運営し、楽しそうに発表し、真剣に聞いている姿に共感する声を頂いた。

(4) マイスター・ハイスクール事業を支える学校改革

生徒活動概念図の根っこの部分に関しては、「別添1」に資料をつけておく。なお、成果概要図の4シート目に資料として掲示する。「学びに向かう指標」坂井高校スタンダード～7つの矜持～は、「自主・協働・創造」の校訓をベースに置き、7つの項目を矜持もってしっかりやり遂げていこうとする、生徒と教員のための行動目標であり支援項目である。校訓を認識し、全生徒全教職員がコースを問わずスタンダードとして「見える化」したものである。

この「学びに向かう指標」作成グループには、生徒支援部やカウンセラーの教員も入り、この学校のSWOTを出し合い、何回もの会議の末にまとめたものである。

(5) 今後の後継事業に向けた「坂井高校コンソーシアム」の始動に向けて

コンソーシアムの始動は来年度の4月からということにはなっているが、実際は本年度から参加企業や大学・自治体の方にはメールで気軽にお願ひし、訪問させていただき、また来校していただき、かつ課題の協働の提案をいただいたりしている。過去2年間の信頼関係の築きが実ったという実感を持っている。お世話になって所には必ず生徒アンケートの結果と生徒の声を届けてきて、企業側にも気づきがあるとの声を頂いている。企業の技術とその産業の夢とそして解決していくべき課題を共有し、お互いに考え、探究につなげていく、このコンソーシアムでマイスター・ハイスクール事業3年間のレガシーを継続していったほしいと願っている。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

事業名「学科横断型DX研究による次世代産業人育成体制の構築」の目標として「地域の課題と地元企業の価値を理解し、持続可能な次世代の地域産業を担う人の育成」（この中にDXは当然含まれている）を掲げている。その根底には、地域に愛され、貢献できる高校であり続けたいことがある。そして何よりそのことが生徒並びに企業、大学、自治体のWell-beingが達成されることに寄与できると考えている。

その目標の進捗状況は上記に述べた実績説明にあるように、3年間（実質2年と6ヶ月程度）で様々な試みを行ってきた。そしてやっとすべての活動を通して、生徒にも教職員にもマイスター・ハイスクール事業への認識と理解、そして実施催事に対する協力が得られてきたと考えている。1年目が終わった頃は、新型コロナの影響もあり、計画を立てても空回りをしてた。ただ、企業等を廻り、マイスター事業の有意性を説いてきた。2年目は、すべての計画を実行し、あらゆる機関との信頼関係が育まれたと考えている。そんな中で今年度は、生徒も主体的に動いてくれるようになり、このマイスターの取り組みが生徒のものに少しずつなりつつある。なにより教職員からもやってみようという、前向きな言動が得られるようになってきていると感じる。

マイスター・ハイスクール事業は型があるものではなかった。すべて既存の教育の上にクリエイティブにやっていかないといけないものであった。時には既存のものを壊していかないといけない。したがって何をを目指しているのかどこまでやればいいのか一人ひとりの生徒や教員には見えないところがあった。成果というと、一つひとつの催事の成功と生徒の声から感じる変容しかないのだが、その成果物としては最終年度の報告書が出来上がる。

また、この成果に対する評価は、地域の方の声、企業の方の声、中学生の本校を希望する生徒の数に現れてくるであろう。12月16日に行われた企画研究発表会および「コンソー

シウム設立のための総会」では、地域の方や PTA そして企業の方、何より生徒から「よかった」という声をもらった。このように 8 コース全体が集まって研究発表会が開かれることへの賛意も寄せられた。企業の方からはレベルの高さに感心する声もお聞きした。また、生徒自身がその発表会を運営していることから主体性や積極性などの資質向上にもつながる取り組みであるという認識も持っていただけた。生徒自身が主体的に取り組み、何かを仕上げていく、そのことがいかに生徒を成長させ、好感をもって評価されるかということである。学校祭が顕著な例であるが、このような産業にかかわる分野でも生徒自身によるイベントがあっている。コンソーシアムに関してはあらゆる関係者からの期待が膨らむ。これが、今後の職業教育の 1 つのモデルになっていくことを期待している。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

学校の生命線である「学びに向かう指標」に生徒・教員が真剣に対峙できるかが今後問われてくる。その上で、人が代わっても継続していける本当に価値あるものに坂井高校コンソーシアムをブラッシュアップしていくことが肝要である。

学校そして産業界や自治体・大学との定期的な会合も重要なカギを握る。まず、学校が組織図を示すことである。今後普及促進事業でさらなる飛躍を目指すのなら、生徒・教員全体へのビジョン並びに具体的な 2 年間の行動計画も、示していく必要がある。それはやっていく中で変化していてもいいので、この学校をそして地域をどう豊かに変えていきたいのかの青写真を示して、3 年前の「マイスター・ハイスクール事業」の始まりとは違うアドバンストな気風を示していかなければいけない。

これからの改善点としては、産業コーディネーター、教育コーディネーター、地域コーディネーターのような人材を置き 3 者と事務局で協議して行動を起こしていくやり方を想定している。実際、今年度は、来年度からの持続可能な自走の体制をリハーサルする形で組織の運用を図ってきたが、後継事業に組することになると、上記の 3 者を置くことは有意義である。普及の部分では県のプランも待って、参画していく。単にやっていることを披露したり、他校に加わってもらったりでは、本当の拠点校とはならないことも自覚している。福井県全体の専門教育の充実、小中高大を通してのキャリア教育、ひいては将来の地域を守っていくことを追求していかなければならない。その気概を本校が持てるかにかかっているのかもしれない。

本校は今後も後継事業を通じて地域からの意見に耳を傾け、支援を得て、あくまで地域に愛される学校になるように、AAR を常に回し続けるように取り組んでいく。

担当課	福井県教育庁高校教育課	T E L	0776-20-0570
氏 名	角正 康弘	F A X	0776-20-0669
職 名	指導主事	e-mail	y-kakushiyou-ch@pref.fukui.lg.jp

	学びの項目	実施期間（R 5 年 4 月 1 日～R 6 年 3 月 3 1 日）											
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
1 年 ふくいの産業 （学校設定教科）	I. マイスター・ハイスクール事業の意義 コミュニケーション、表現方法												
	II. コース間授業 （他コースの授業受ける）												
	III. 専門家による授業												
	IV. 企業人と創る授業												
1 年 企業研修	V. 企業訪問研修（半日）					企 業 訪 問 研 修							
	VI. 企業出前研修（半日）										出前研修		

ふくいの産業においてビジネスコースと生活デザインコースは 5 月以降産業実務家教員の講義を受けて、校外研修も行った。

2 年 企業との研修	I.企業訪問研修 (A.M.専門の企業 P.M.専門外の企業)												
	II. グローバル研修 (1日最先端技術の見学)												
	V.生徒先進企業派遣							今年度該当生徒なし					
3 年	課題研究							課題研究				企画研究	
								交流会				発表会	
全学年	企画研究発表会視聴												

※上記の1・2年の事業は、生徒活動概念図の「幹の部分」に相当 3 年と全学年の事業は生徒活動概念図の「葉の部分」に相当
・企画研究「葉の部分」とは、3 年生全員が行う課題研究の中で、コースがマイスター事業として取り上げた研究をいう。

マイスター事業を支える学校改革

8 コースを俯瞰した 3 つのグループによる研究をAARサイクルで行う。（年間通じて）

・「 学びに向かう指標 」坂井高校 スタンダード～7 つの矜持～	校訓を、具体的な行動目標の中に落とし込む。7 つの項目は、自分たちの誇りをもって向上を目指そうというもの。全生徒、全教職員が共通認識を持って臨み、生徒の「自己肯定感の向上」の醸成にも繋げていく。年度末のキャリアマップにもつながる行動目標でもある。 令和 5 年度から生徒自らの啓発活動を中心に置き、この指標の達成を目指している。
・ 評価	すべてのイベントごとにgoogle formで振り返りを行ってきた。学びの振り返りを還元していくことが課題として残っている。初年度が、コロナの影響で計画が 3 割程度しかできなかったこともあり、今年度末にはこの 3 年間（1 年生は 1 年間、2 年生は 2 年間）のマイスター事業を通して、自分の変容を挙げてもらおうと思っている。その内容の検討と分析により、生徒のへの成果状況をつかむ。
・ 広報	地域、企業、各教育機関、保護者にマイスター事業の取り組みを知っていただくため、「マイスター通信」を年 5 回程度発行してきた。今年度は第 10 号から第 13 号まで発行。14 号は総括号として 4 ページものとして発行する予定。この通信を見て、本校に入学してくる生徒もいる。

※生徒活動概念図の「根の部分」に相当

企画研究による各コースの取り組み(令和5年4月～令和6年1月の取り組み)

コース	タイトル	内 容・展 望
ビジネス	学科連携と公開講座による地域振興	学科連携では農業コースとの連携による梨の箱のデザイン、梨Bagの製作、そばの箱のデザイン、自動車コースとの連携によるミニ北陸新幹線の乗車券のデザイン、機械コースとの連携による焼き印のデザインの活動を行った。今年度はデザイン制作の依頼が多く、打ち合わせ、デザインの考案、プレゼン、評価を繰り返し、試行錯誤しながら納品することができた。 公開講座では、今年度は地域のコミュニティセンターとの共催によるスマートフォンの写真・動画編集アプリの講座の実施と、坂井中学校に出向いて文書作成の出前講座を実施した。これまでの専門の学びを生かし、地域に貢献できるよう企画・運営全てを生徒自身で行い、地域の方や中学生に喜んでもらえた。 今後も継続して他コースや外部と連携した活動に取り組むとともに、生徒自身のスキルアップも目指していきたい。
生活 デザイン	地域の食材を活用したレシピ開発	2年前から坂井市と連携して「ふくい甘えび」のレシピ開発を行っている。今年度も三国港市場での試食会に向けて昨年度開発されたレシピの改良、新しい料理の開発を実施し、一般の方々へのお披露目もできた。三国港市場で活動されている「おかみ会」とのつながりを深め、生徒たちが考えたをふくい甘えびのレシピを地元でなじみのある料理にしていきたい。
	全国産業教育フェアでの発表（ファッションショー） 卒業制作発表会（ファッションショー）	発表会に向けて衣装作りは、6月からスタートした。まずは、製作する衣装のデザイン検討、デザインが決まった後は型紙の作成が必要になる。型紙作成にはより高度な専門知識が必要になるため、パタンナーであり「ものづくりマイスター」にも認定されている柴崎幾子氏を招いて、生徒たちそれぞれのデザインにあった型紙の作成を進めていった。その後は試作の製作から試着補正を繰り返し行い、10月下旬、1月中旬の発表会には思い思いの作品を完成させることができた。
機 械	焼き印（Ver5）～被削材と商品の特性を考慮した金属切削加工～	「機械コースの学びを地域に還元する」をテーマで焼き印の製作を続けている。食品コースが製造したお菓子に焼き印を押して販売する連携から始まった取り組みである。その後には坂井高校とつながりのある地域の方々とコラボレーション企画として活動してきた。今年は越前市で建設業をしている田邊さん、「一般社団法人EKIMAEMALL」の中谷さんからの依頼がありました。企画・製作を通して、技術の向上だけではなく、地域のことを知る良い機会になった。
自動車	ドローン講習会	1・2年生を対象に、初級・中級の講習会を行った。 希望生徒を対象に上級講習を行い、DIPS申請(国土交通省飛行承認申請)した。申請した生徒は承認を受けることができた。 ノウハウを生かして、今後他学科へのドローン本体と資料配布を行い活用につなげていく方針です。
電 気	温泉熱の利活用	本校の近くに位置するあわら市の天然足湯（芦湯）施設を管理しているあわら市観光協会の協力のもと温泉熱を利用・活用することによる地域と校内のコースの特色を活かした持続可能となる取り組みを行った。現時点では、1(W)に満たない発電量であるが、複数のパルチェ素子を更に直並列に接続し、ポータブル充電器に貯めた電力でLED化した芦湯の提灯を点灯させたい。
	地域と校内コースの特色を活かした持続可能な取り組み	あわら市の公共施設である芦湯に利用している源泉の捨てるだけになっている余剰分の温泉を利用し、本校の農業コースと連携することで、余剰分の温泉熱を利用した農作物用のハウスを設置し、常温でのトマトの苗の成長度合いを比較実験観察した。冬期間かけて、明らかな違いが見て取れたことを利用し、今後は地元の付加価値の高い農作物への可能性を探ることで、地元の特徴の1つになる取組に繋げたい。
情報 システム	未来のあわら温泉　～スマホ片手に温泉街を周遊～	あわら温泉では立派な温泉旅館に宿泊することで観光が完結している。連携した芦原温泉旅館協同組合からは温泉街を周遊してほしいという要望があった。そこで、宿泊客が旅館の外でも周遊観光ができるサービスを考えた。企業との連携を通して、あわら温泉AR周遊アプリを開発した。また、キャラクターのファンを取り込むためゲームの得点に応じた景品を考えた。生徒は、地元温泉街を盛り上げる一助となることができた達成感に満ち溢れていた。
	地元直売所「いねす」で食品のロス管理システム「いねくと」の改良	令和2年度卒業情報システムコースの生徒が開発した食品のロス管理システム「いねくと」の改良を行った。ずっと稼働していたシステムだったが、最近動作が遅く問題を抱えていた。そこで、サーバーの入れ替えや新たな要望を聞き、新機能を追加、今まで使っていたものをさらに使いやすく改良した。納品したときは非常に感謝され、地域に貢献できたという実感を得ることが出来た。同時にコースのつながりや伝統を築いたと実感することもできた。
農 業	サステイナブルな農業からサステイナブルな未来構築へ ～絶滅危惧種の保全活動とSDGs活動を通して～	坂井市の絶滅危惧種アゼオトギリとエチゼンダイモンジソウの保全活動としてのSDGs活動を継続的に行った。板倉みどりクラブと連携し、水田の雑草アゼオトギリの種の保存を行い、こどもの森運営委員会と連携しエチゼンダイモンジソウの増殖と木育ガーデンstudyに移植を継続的に行うことができた。苗づくりにも成功し、エチゼンダイモンジソウはLEDを使い、発芽を促進し、人工気象室で大きく苗を成長させることに成功した。
食 品	安心・安全で食品ロス低減につながる地域特産品開発	社会全体の課題であり地域農業に密接に関係した課題でもある「食品ロスの低減」をテーマに、地域と連携し農産物の有効活用と廃棄ロス問題の解決に取り組む「安心・安全で魅力ある加工品の開発活動」を通して、地域貢献と生徒の課題解決能力の育成に繋げた。予算で購入したルンパックを使用して衛生検査を行うことで生徒の加工品作りにおける衛生面での意識づけの教科に繋げることができた。これまでの活動を通して、地域の方から協力依頼を多くいただけるようになり、地域貢献できる機会が増えたことが大きな成果である。また、捨てられてしまう農産物でも美味しい加工品が作れることを知ってもらい、食品ロスの低減に繋げることができた。